

第8回スクールミーティング意見交換内容

- 日時： 平成26年2月18日（火）午後4時30分～午後6時00分
 ■会場： 市立東野中学校図書室
 ■参加者： 熊本市教育委員会（崎元委員長、泉委員、田口委員、廣塚教育長）4人及び事務局
 教職員18人（東野中6人、秋津小4人、泉ヶ丘小4人、若葉小4人）
 ■テーマ： ①「徳・知・体」の調和のとれた子どもたちを育成するために必要なこと
 ②学校における現状と課題
 ③いじめや体罰の問題について
 ④部活動について

（◆：質問、○：意見、▼：要望）

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員・事務局
1	②	市の採用方針	◆ 新規採用教員の校内研修の機会にベテラン教師が授業を公開したり、若い職員が学校行事や地域の活動に率先して参加していることから、学校全体が活性化している。今後の市の採用の方針を聞きたい。	○ 本市は、50歳以上の先生の数が多い。退職する先生方の補充はしっかりしていく。 また、市立特別支援学校高等部が平成29年度に開校するので、その先生方も養成している。 今後、採用数は増える状況である。 初任者を各学校で受け入れてもらっているが、初任者研修は、大変であることは承知している。新採の先生がいることで学校が活性化するという状況はありがたい。（教育長）
2	②	携帯電話の普及による「SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」等でのトラブルへの対処	◆ 携帯電話によるトラブルが深刻になっているように感じている。学校がどこまで関われば良いのか等、市教委としてどのような対応を考えているのか。 ○ 熊本市の中学校の生徒指導委員会で研究しているところである。主に「LINE」についての内容になるが、職員間で研修をすることは可能である。 ○ 学校では携帯電話を禁止しているが、小学校の場合、GPS(グローバル・ポジショニング・システム:全地球測位システム)機能が付いているものを、安全対策として親が持たせている場合があり、学校と親の指導の違いで困ったことがあった。	○ 教育委員及び事務局で勉強している。この分野に詳しい人の専門的な知識をみなさんに提供できないか考えている。 ただし、対策より早く物事が進んでおり、対応が追いつかないという課題がある。 そのような中、できることから少しずつでもやっていくことが大切であると考えているため、みなさんへの新しい情報の提供や、対応策マニュアル等の作成が必要ではないかと思っている。 ◆ 「SNS」に詳しい民間の人や警察関係の研修会をしたような例はないか。 ○ 生徒指導部では、詳しい先生や専門家を招いた研修会や、各学校への講師派遣を考えている。 また、これからは授業での取り組みを考えているところで、全学校で「情報モラル教育」が実施できるように、「情報モラル教育」の手引きを作成したいと考えている。（事務局）

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員・事務局
3	②	教員の配置	○ 学級には支援を必要とする子どもがいる。出張や年休の時など、担任は教室を離れることになるが、補欠を頼めるような職員がいない。 ○ 学級支援員には授業の補欠は頼めない。出張や年休を取る場合に、頼める人がいてほしいと思っている。 ○ 新年度の1年生は2学級で、1学級33人になる予定であるが、教員には1年生33人の子どもの担任をする不安があり、積極的な担任のなり手がない。1学級20～25人であれば、学級が増えて1人の教員に対しての子ども的人数が減るので担任の不安が軽くなる。もしくは、少人数指導の教員が余分に配置されれば良いと感じている。 ○ 少人数になると子ども1人に対する時間も増えるので、学力は向上すると思う。	◆ 学級支援員はどのような役割をしているのか。 ○ 現状では、少人数学級の拡充は難しいと考える。今後、少人数指導を増やすということは考えられるが、少人数指導の成果の説明が必要である。 ○ 一般的にはそのように考えるが、その傾向を示すデータはない。
4	②	多忙感の解消	○ 小学校では、即座に対応しなければならないような問題が起こっても、対応が放課後や次の日になることがある。対応が遅れることで、指導に対する保護者からの不信感を招くことがあった。 職員にとっても、16時以降に対応を始めると、19時頃まで時間を要していた。 そこで、本校では、給食の準備中に関係者で情報交換をするようにし、即座に対応できるようにしている。その早い対応によって、保護者からの苦情が感謝に変わったという例もある。 ただし、給食準備中の情報交換は、担任以外の教員に教室にいてもらうことになり、子どものアレルギー等に対する情報などの共有が必要である。新年度に向けて円滑に進められる方法を考えていかなければならない。 ○ 情報交換のミーティングに参加する。	◆ 多忙感解消の対策があれば教えてほしい。 ◆ 管理職はどのような役割を担っているのか。

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員・事務局
5	②	特別支援学級の支援体制	▼ 特別支援学級の担任として、受験を控えた生徒の指導を行ったが、入試に必要な教科の指導ができず、生徒が不安を抱え、受験前のストレス等でパニックを起こすことがあった。特別支援学級在籍の生徒が受験を控えている場合は、各教科の教員に授業をしてもらいたい。 ○ 特別支援の枠が広がっても、保護者や本人がその支援を希望するかどうかは難しい。 現状では、特別支援学級に在籍して普通高校への進学を目指す生徒もあり、受験に対する保護者と本人の不安は大きい。 ○ 特別な支援を必要とする子どもは、1学級に何人もいる。何となく増えているように感じているが、今に始まったことではないと思う。 ○ 教育委員会からは学級支援員が配置されているが、それだけでは十分な支援を受けられていない子どももいる。 ○ 小学校には、勝手に席を立ったり、奇声を発したりする子どもが多い。中学校では課題が表面化せずに通常学級で過ごしている生徒もいるようである。適切なサービスを受けた方がいいと思うが、保護者と子どもが納得しないことがある。 ○ 通常学級で授業を受けるのが難しいと思われる子どもでも、高等学校へ行かせたいという保護者も多く、親とのやり取りでうまくいかないことも多い。 ○ 高校でドロップアウトするという話は理解できる。中学校では手立てを講じているが、不登校など様々な問題を抱えていることがあり難しい。 ○ 教育委員会は学級支援員の配置など、多くの予算を使っており、学校としては知恵を出し合いながら活用しているが、工夫にも限界があり、さらに人がいたら効果が現れるのではないと思う。 ○ 人を配置する場合は、活用に制限がない方がありがたい。その学校の実態に応じて活用できる人が配置されれば、効果的と考える。	○ 特別な教育的支援を必要とする生徒はこれからも増えると考えられる。これまでの考え方を変えなければ対応できないようになる。対応策は、みんなで知恵を出し合わなければならない。 ○ 高校に行く年齢になってからドロップアウトする生徒は多い。 ○ 中学校で、特別支援の考え方を広めないといけない。どんな子どもを特別に支援していくのかという枠組みができると、手立てができると思う。どのように子どもたちを教育し支援していくか、どのような教育がその子どもに合うのかを考えて、もう一度デザインしていかなければならない領域であると思っている。

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員・事務局
6	②	学級支援員について	○「授業の代替はできない」、「市外への出張に行けない」、「宿泊研修等で、夜間の宿泊ができない」等がある。出張や宿泊で融通が利けばいいと感じている。 ▼ 少人数指導加配の教諭にも授業時数の規定がある。学級支援員は増員できるのではないかと期待があるので、その場合、学校の実態によって勤務ができるような配置がされればいいと思う。	◆ 学級支援員には、どのような勤務上の制限があるのか。 ○ 学級支援員はあくまでも、学級担任の補助として配置されている。 学校でより効果的に活用していくのは大事なことと思う。今後のあり方については考えていかなければならない。(事務局) ○ 平成26年度の学級支援員は、131人で1億8千万円の予算を計上している。(事務局) ○ 高校に支援学級が作れないかという考えもある。 ◆ 学級支援員の制限の件については、今後検討できることなのか、もしくは、ルール上できないということがあるのか。 ○ 現状ではいくつかの制限はあるので、個々の状況に応じて判断しなければならないところもある。相談してもらいたい。(事務局)
7	②	小学校での特別支援教育について	○ 小学校では、特別支援教育に対する両親での考え方の差があることもあるため、家庭内での共通理解が必要と感じている。	
8	②	子どもを取り巻く環境について	○ 基本的な生活を送ることが困難であるなど、様々な環境の子どもがいる。SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)をはじめ、児童相談所や警察、区役所に支援してもらっている。熊本市の支援体制は整っていると感じているが、現状では、対応が必要と思われる数が多く、十分とはいえない状況であり、学校が福祉的役割も担わなくてはならないのではないかと考えているところである。 ○ SSWに入ってもらえるのは効果的である。 ○ 学校では対応できないようなこともある。虐待が疑われる場面では、児童相談所等での対応を考えるが、学校と子ども、親の持っている感覚に差があるので、踏み込めないこともある。親の気持ちを変えるのは難しいと感じる。	◆ 子どもたちの家庭の様子についての課題はどのようなものか。 ○ 実態として家庭環境の悪化が激しいように感じている。家庭教育力の低下が、子どもの様々な問題を引き起こしているように感じる。 ○ 子どもの不登校等で家庭に原因がある場合、医療機関とミーティングをする等の対応を市が行っているので利用していいのではないか。 ○ 学校と家庭の橋渡し役として、SSWを配置しているが、来年度はSSWを1人増やし、6人にする予定である。(教育長) ○ 学校では、区役所の福祉課等とも連絡しながら、対応しているのは分かっているが、困っていることは、教育委員会にも伝えてほしい。(教育長) ○ 学校だけで対応するのは無理だと考える。命の問題に関わってくることもあるので、市の機関と連携をとりながら対応していくべきだと思う。

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員・事務局
9	②	施設について	○ 本校では、校舎の壁の傷みが目立っている。 ▼ 男性職員用の更衣室がないので、更衣時に不都合を感じる。	○ 男性更衣室の仕様はなく、具体的な計画はない。 学校の状況によって対応できるものは対応したい。(事務局)
10	③	きずなアンケートについて	○ 中にはそのような生徒も見かけるが、貴重な情報は得られるので、得た情報を指導に生かしている。	◆ 毎月きずなアンケートをとっているが、児童生徒たちにとってマンネリ化していないか。
11	④	部活動の状況	○ 熱心な保護者と無関心な保護者との間で、送迎等の保護者の関わり方でのトラブルがある。 ○ 金銭的な理由や送迎ができないという理由で、部活動に入れない子どもがいる。このような場合、部活動の問題として上がってこないが、学校としては、子どもの希望があれば、どうか部活動をさせてあげたいという気持ちは持っている。解決策は見つかっていない。	◆ 部活動の状況について教えていただきたい。
12	④	今後の部活動運営	○ 子どもの数と職員の数が減る中で、小学校で、担当する部活動を決めて、同じ中学校区の隣接校で部活動シェアができればいいのではないか。	○ 熊本市では、現在、運動部活動指針を示している。今後は、平成26年度に検討委員会を立ち上げて、部活動について検討していきたいと考えている。
13	①	外国語活動実施について	○ 外国語活動については、5、6年の担任だけが取り組んでいる状況である。将来的に3、4年生から実施となった場合に、3、4年生の担任になることに不安を抱える教員が増えるのではないかと感じている。小学校は担任が全教科を授業するため、全ての職員で研修を深めたいと考えている。	◆ 小学校の外国語活動に対する意見を聞かせてほしい。
14	②	専科の配置	▼ 今年度は学級減で、理科専科教員の加配がなくなった。高学年の指導では理科の専門的な知識が必要である。理科専科をつけてほしい。	○ 学級数で専科の数が決まる。現在は学校の選択により、音楽専科が1人加配されている。(事務局)
15	②	保護者との連携	○ 担任をしている児童の実態について、保護者に相談したいが、内容によっては言い出しにくいことがある。専門的な支援を受けると改善できると考えるが、担任から保護者に言いにくいこともある。特別な教育的支援を受けさせたいと思う場合、保護者との連携が難しいところがある。 ○ 1度は試みたが、保護者が行動に移さないで、2度目が言いにくいところである。 ○ 連絡帳やメールを活用し、互いに打ち解けてよい関係を作っていくという方法もある。	○ 保護者に話した方が良いと思う。

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員・事務局
16	その他	駐車場有料化	◆ 学校の駐車場有料化についてどのようになっているのか聞きたい。	○ 児童生徒の活動に支障がなく、緊急車両の通行の妨げにならない場所で駐車スペースがあれば、校内への駐車を認めているところである。 駐車場の有料化について、現在提案しているのは、一般の職員は月額で商業地域は3,000円、市街化区域は2,000円、その他1,500円としている。ただし公務で使う教職員については、その半額として提案しているところである。無料ということはありません。今年3月までには方針が決まると思われる。(事務局)
17	②	臨採経験のある教員の採用について	▼ 臨時採用教員を、採用後も勤務校へ継続して配属するよう配慮があればありがたい。 ○ 初任校は、気分を新たにするためにも、臨採で勤務していた学校とは違う学校が良いと思う。	○ 臨採経験のある方は、1次試験の一部を免除し、年齢枠も59歳までとしている。受けやすいという評価もいただいております。臨採経験のある人材をたくさん採用している状況である。(教育長)